

平成27年度 一般選抜中期日程／経済学科・公共マネジメント学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I (140点)

問1

【出題の意図】

本文中の括弧(1)～(7)に与えられた単語を選択する問題。単語(動詞)を文脈に沿って入れ、なおかつ文法的知識を問うもの。入れる動詞は、affect / cause / experience / fail / have / record / situate であった。

【解答の傾向】

failの活用変化を、fellやfallenにしたもの、或はfailerとするものもあったが、受動態や過去分詞の形容詞的用法、さらに現在完了形の基本的な知識を問うものであったが、定着しているとは言えない解答が目についた。中でも、causeをcausingに直す、後半に位置する分詞構文の理解力は不足していると言わざるを得なかった。

問2

【出題の意図】

阪神大震災の被害が大きかった理由を3つ挙げさせる問題。本文中には4つ理由が述べられているが、その内3つを答えれば良い形式。いわゆる「英文和訳」ではなく、書かれた「情報」を把握しているかどうかを問うもの。

【解答の傾向】

- ・解答しやすい設問だったので、全体的には高得点の傾向であった。
- ・正解率が高かったので、受験生の誤答の傾向として特に目立つ点はなかった。
- ・受験生が苦慮したと思われるものは、「10字程度で」という字数にあったものと推測される。一度解答を書いてからそれを消し、字数を削って書き換えた答案がかなりあった。
- ・この点は、採点でも少々苦慮した。当初の消す前の解答では正確に答えていたと思われるものが、数文字削ったために若干正確さを欠く解答となったものが多かったのではないかという印象である。この作業も学生の資質を試すものであるが、採点に当たってはこの点は結果として甘めとなってしまった。こちらのほうで、若干の言葉を補って解答を読む傾向となってしまったようである。
- ・これとは逆に字数が10字程度を大幅に超えている解答の取り扱いも難しかった。本来は減点の対象となるが、しかしこのような解答の多くは問題の英文の内容から離れた文言、あるいは英文を明らかに誤読している文言から成る文章となっていたので、自ずと高得点とはならなかった(むしろ余計なことを書かなければ高得点だったのに、というものが多かった)。したがって、あえて字数制限のための減点という処置はとらなかった。

問3

【出題の意図】

東日本大震災の大きさを表す具体的な事例を2つ日本語で挙げさせる問題。本文中には

- 1) its energy could have powered the city of Los Angeles for a year
- 2) the force of the earthquake not only moved mainland Japan by as much as 2.4 meters
- 3) it made our days slightly shorter

と書かれている。1) では仮定法過去完了と power の意味、2) では by as much as 2.4 meters の理解、3) では our days の解釈が問題となる。単語自体は難しいものではないが受験生の基本的な知識とある種想像力を試すものである。

【解答の傾向】

(1) について

・ could have powered の訳について

ロサンゼルスに地震が伝わった

ロサンゼルスまで影響を与えた

のように、仮定法を理解していない訳(解釈)が目についた。さらに、「電力を供給する」という意味の power は受験生には難しかったのかもしれない。

(2) について

・ この採点基準に該当する部分に着目し、解答する答案は多かった。ただ、「単位」を表す by や「(量の) 多さ」を強調する as much as への注意が払われていないと思われる答案も散見された。

(3) について

・ この採点基準に該当する部分に着目し、解答する答案は多い印象で、訳もおおむね良好であった。ただし、our days の解釈に悩んだと思われる答案もあった。

問4

【出題の意図】

下線部 (A) の Year One of Volunteerism の内容を問うもの。阪神大震災がきっかけとなり、日本にボランティア活動が復活したことがその直前に書かれており、文脈の理解が出来ているかどうかを問う意図があった。

【解答の傾向】

出題部分の段落全体を読めば、下線部 (A) が阪神大震災に関連していることは明らかである。しかし、直後の“This attitude prevailed…”に注目し、東日本大震災に結びつけた誤答が非常に多かった。

阪神大震災について記載した解答も、被災地支援のために日本中からボランティアが集

まったことだけを解答するものが多く、「日本のボランティア活動の復活 (renaissance) につながった」ことまで読み込めた受験生はほとんどいなかった。“Volunteerism”に注目して前にたどれば、答えとなる文 (“The Great Hanshin quake led to…”) にたどり着くことができる。東日本大震災と結びつけた解答が多くみられたことと合わせて考えると、出題文を「文章」として読めなかった受験生が多かったのかもしれない。

また、基礎的表現である“all over the country”を、「世界中」と誤訳した回答も極めて多かった。

問5

【出題の意図】

いわゆる英文和訳問題である。全文は They can cause massive damage to cities and communities, but they also remind us of our potential for kindness and our ability to rebuild and prosper again である。ねらいは3つ。一つは代名詞 They の理解。一般の人を表す以外も多いことを理解できているかどうか。二つ目は can。「出来る」という能力を表すよりも「可能性」を表現することが多いことの知識を問うもの。三つめは後半の構文理解。前置詞 of の目的語は、our potential for kindness と our ability to rebuild and prosper again の二つ。

【解答の傾向】

they を「彼ら」とする解答が残念ながら多かった。直前に quakes are a part of daily life in Japan とあるにも関わらず、問4の傾向と同じで、4行しかない段落を読んでいないことが分かった。

can に関しては、they どころではなく、「出来る」としたものが圧倒的に多かった。中学、高校でもう少しこのような基本的な知識を教えるべきで、そうでなければ「コミュニケーション英語」の謳い文句が泣いてしまう。更に、「出来た」という時制を無視した解答も目についた。「肯定・否定」「時制」そして「比較級」などは、「仮定法」と同じくらい「間違いなく」コミュニケーションをする上でも大切なルールだということを認識させてほしい。

三つめの構文に関しては、our potential に後の kindness and our ability to rebuild and prosper again をかけている解答が（日本語になっているかどうかは別にして）多かった。これなども、our potential / our ability と並列されていることをしっかり理解できていれば誤解は避けられたはずである。

単語レベルでは、remind を remain、prosper を proper、そして communities を communication と取り違えているものも意外と多かった。

II

問 1 (各 15 点)

【出題の意図】

基本的な英作文の能力を問う問題である。問題は2つ。

【問題 1】

私は最初それをティーンエイジャーを狙った映画にしようと考えていた。

【解答例】

I had thought at first to make it a film aimed at teenagers.

【解答の傾向】

- ・「と考えていた」を過去完了で表現できたものが少なかった。
- ・「ティーンエイジャーを狙った映画にしようと考えていた。」を **made a movie for teenagers** のように、大雑把な捉え方で書くものが多かった。**aim at, target** などという表現を用いて、細かい部分をより正確に英訳してもらいたかった。
- ・ **teenagers** のスペルエラーが多く見られた。

【問題 2】

私が聞いた反響からは、ティーンエイジャーの反応が私自身の意図に最も近かった。

【解答例】

From the responses I heard, the reaction of teenagers was the closest to my own intention.

【解答の傾向】

- ・「反応」**reaction**、「意図」**intention** という語彙が適切に使用できているものが少なかった。
- ・「私が聞いた反響からは」**From (According to, Based on) the responses I heard** の部分が不完全なものが多かった。例として **I heard response, my hearing response** など。

(1)、(2) にの両方に関して、定冠詞、不定冠詞、名詞の単数形、複数形などにさらに注意を払う必要がある。

問 2 (30 点)

【出題の意図・採点基準】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、30点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを

中心に評価した。「構成」については、解答は導入文・本文・結論で構成されているかどうか、「discourse markers” (first, second, one reason is, in conclusion など)や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答例】

I think that Taro should join the soccer club after entering high school. This is because joining clubs is important for students in many ways. First, by joining a club he can make many friends. Having friends is necessary to fully enjoy school life. Second, if he joins a club he can learn how to balance studying and having fun. Studying is important, but students also need to do other things like playing sports and spending time with friends. By joining a club he can learn how to balance his time, and this will be an important skill to have when he enters university and the workforce. In conclusion, I think it is better for Taro to join the soccer club when he enters high school.

【解答の傾向】

半数近くの解答が上記の基準を満たした。中にはとても上手に書いている解答もあったが、一部の解答に止まった。理由を1つ以上挙げている解答が多く、100字以上を書こうとした受験者はいたが、理由をたくさん並べるだけでという解答が多かった。理由をたくさん挙げるよりも、詳細や例などを使い、理由を十分に説明する方が良い解答を生み出す。

最も目立った問題は、自身の経験を「例」としてではなく、「理由」として挙げている解答。例えば：“I think Taro should join the soccer club. Because I joined the tennis club.”のような解答が意外に多かった。ここで二つの問題がある。もちろん、理由しか述べられていないので“Because”で文章を始めることがおかしくて、“This is because...”などと書くべき。しかし、その前に、自分自身がテニス部に入ったことを、太郎君がサッカー部に入るべき理由として挙げていることが最大な問題である。自分自身がテニス部に入ったことではなく、テニス部に入ったことで得たもの（例えば友人ができたこと、時間管理ができるようになったことなど）が理由となるでしょう。自分がなぜ〜〜思うのか、もう少し深く考えた上で作文を書きましょう。そうすることによって、より論理的な文章になるでしょう。時間や字数に余裕があれば、理由を裏付ける意味で自分の経験を例として挙げれば良いでしょう。

文法に係る問題として以下のような例が特に目立った：

あ) 多くの受験者は未来形の使い方を十分に理解していないようだ。例えば：

X If he joins the club he is able to make many friends.

O If he joins the club he will be able to make many friends.

・・・のようなミスをよく見受けた。

い) “This is because” (なぜなら～だから) と “Because of this” (そんなわけで、このような背景を基に) を混乱しているケース :

X I think my club activity made me stronger. This is because I hope Taro will join the club.

O I think my club activity made me stronger. Because of this I hope Taro will join the club.

う) 太郎君の話をしているのに代名詞の“he”ではなく“I”を使っているケースが多かった。また逆に、代名詞を全く使わずにずっと「太郎」を使っている解答も多くあった。英語では人物の2回目の登場以降は代名詞を使う傾向がある :

X I think Taro should join the soccer club. If Taro joins the soccer club Taro will be able to make many friends.

O I think Taro should join the soccer club. If he becomes a member of the club, he will be able to make many friends.